

3つの「C」、そしてもう1つの「C」

2022.1.11 校長 西谷 秀幸

新年の挨拶

令和4年、2022年が始まりました。今年は、十二支（じゅうにし）の3番目、「寅年（とらどし）」年です。皆さんは、十二支を全部言えますか。



子丑寅卯辰巳（ね・うし・とら・う・たつ・み）
午未申酉戌亥（うま・ひつじ・さる・とり・いぬ・い）

さて、板橋区の小学校は、今日から3学期が始まりました。オミクロン株の急に広がっていて、心配なこともたくさんありますが、きっと皆さんは、新しい年の始業式を新しい気持ちで迎えていることでしょう。

実は、人間は「よし、頑張るぞ!」と思う日が1年に5回、あるのだそうです。それはいつかという、「お正月」、1学期・2学期・3学期の「始業式」、そして、自分の「誕生日」なのだそうです。

そこで、今年も皆さんが成長していけるように、毎年、3学期の始業式にお話ししている3つの「C」について話します。

1つめの「C」は「**C**hance（チャンス）です。今年も先生たちや家の人・地域の人たちは、皆さんのためにたくさんの「チャンス」を用意してくれます。ですから、その「チャンス」をしっかりとつかみ取りましょう。

2つめの「C」は「**C**hallenge（チャレンジ）です。成長するためには新しいことに「チャレンジ」をすることが大切です。「失敗は成功のもと」といいます。どんなことにも積極的に「チャレンジ」をしてみましょう。

そして、3つめの「C」は「**C**hange（チェンジ）です。**C**hance（チャンス）をつかみ、新しいことに積極的に**C**hallenge（チャレンジ）することによって、より成長した自分に**C**hange（チェンジ）しましょう。

Chance
（チャンス）
Challenge
（チャレンジ）
Change
（チェンジ）

この3つの「C」の他に、もう1つ頑張ってもらいたい「C」があります。それは、去年もお話した「**C**orona（コロナ）」の予防という「C」です。

皆さんもニュース等で知っているように、今度はオミクロン株によって、第6波がおきていて、東京ではコロナの新しい感染者数が増え続けています。

このオミクロン株は、第5派の時のデルタ株よりも、さらに感染する力が強いそうです。その理由の1つとして、これまでの新型コロナウイルスは、体の中でウイルスが増えていたのに対し、オミクロン株は、喉のあたりで増えるため、しゃべったときに、飛沫と一緒にウイルスがたくさん出てくるのだそうです。

ですから、給食のときや体育のときなど、マスクを外しているときは、絶対にしゃべらないようにしましょう。また、話をするときには、お互いに近付きすぎないようにしましょう。そして、お家の人と相談して、しっかり予防してくれるマスクを付けましょう。

でも、マスクを付けていてもあごにマスクをかけていたり、鼻が出ていたりしては意味がありませんね。正しくマスクを付けるようにしましょう。

それから、これまで通り、手洗い・消毒をしっかりとし、寒いけど換気をして、ウイルスを外に出すようにしましょう。

学校でクラスターが起きないように、2学期の最初の頃を思い出して、一人一人がしっかり徹底しましょう。

去年は丑年でしたが、丑年の特徴は、「我慢」と「もうすぐ良くなる前ぶれ」でした。そして今年、寅年の特徴は、「新しいことが始まり、成長する年」なのだそうです。

3つの「C」。そして、もう1つの「C」。このことを意識し、そして、寅年だけにたくさんのことにトライして、素晴らしい3学期、成長する1年にしましょう。

これで、始業式の話が終わります。

（裏面に「先生方へ」があります）

〈先生方へ〉

令和4年、2022年が始まりました。今日は、子供たちが決意を新たにする3学期始業式です。人が決意を新たにする時は年に5回あると言われていおり、それは「お正月」「年に3回ある始業式」、そして「自分の誕生日」なのだそうです。

多くの子供たちは新しい年が始まったということで、決意も新たに学校に来ていると思います。オミクロン株の感染拡大により、3学期はまた教育活動に制限がかかってしまうかもしれませんが、子供たちの決意の気持ちを大事にして、希望あふれる3学期のスタートを切ってください。

ところで、オンラインによる始業式ということで、校庭での始業式とは様子が異なりますが、毎回お願いしているように、始業式が終わるまでに、必ず子供たちの前に立って様子を一人一人の様子をしっかりと見てください。話を聞く時間も、子供たちの横や斜め前から、一人一人の様子を観察してください。これは健康管理上のことはもちろんですが、「始業式の朝の顔には、その子の長期休業中の様子が表れる」からなのです。

担任と目線が合わない子、うつむき加減の子などは要チェックです。つまらない冬休みを過ごした子は話に集中せず下を見ることが多いのです。冬休みに何かあった子は、担任と視線がなかなか合いません。ですから、始業式という短い時間に、クラスの子供たちの冬休みの様子を把握してください。

この表情は、始業式の後に消えて分からなくなってしまうので、ですから、始業式の短い時間が勝負です。私たちはプロの教師ですから、教室内でどの位置にいればいいのかを考えて行動しましょう。児童理解をする絶好のチャンスですから、みすみす逃すことのないようにしてください。よろしくお願いします。

また、今週は今年目標、3学期の目標などを立てるクラスが多いと思いますが、「数字を入れて書かせる」と漠然とした目標から具体的な目標に変わります。そして目標は立てたあとに「そのために、何をするのか」という具体的な手だてが大切です。学級の実態に合わせて御指導ください。

3学期は、授業日数が52日（6年生は53日）しかありません。毎時間の授業を今まで以上に意図的・計画的に進め、無駄に過ごす時間をできるだけ少なくしていきたいと思います。どうぞ、よろしくお願いします。

なお教室では、せひ春の七草も話題にしてください。「せりなずな ごぎょう はこべら ほとけのざ すずな すずしろ これぞ七草」…これくらいは覚えさせたいですね。

今週はやることが多いですが、車と同じで急加速は厳禁です。うし年だけにゆっくりと徐々にペースをあげていただければと思います。よろしくお願いします。

【資料】十二支の「寅」と干支「壬寅」について

- 十二支は、もともと動物とは無関係のものだった。東西南北の方角に「子（ね）・丑（うし）・寅（とら）・卯（う）・辰（たつ）・巳（み）・午（うま）・未（ひつじ）・申（さる）・酉（とり）・戌（いぬ）・亥（い）」と漢字をあてていたが、のちに十二支を覚えやすくするために、それら字に動物をあてはめ、3番目の「寅」には、「とら」が割り当てられた。
- 勇猛果敢な動物「とら」は、黄色地に黒色の毛皮の模様から、虎に産まれる前は夜空に輝く星だったのでと考えられていた。「決断力」や「才知」、「才覚」の象徴で、「始まり」の意味もあり、縁起の良い動物である。
- 今年の干支は「壬寅（みずのえ・とら）」である。「壬」は「妊に通じ、陽気を下に妊（はら）む」、「寅」は「蟻（ミミズ）に通じ、春の草木が生ずる」という意味があり、「壬寅」は、厳しい冬を越えて芽吹き始め、「新しく立ち上がる」という意味や「生まれたものが成長すること」といったことが表されている。
- 過去の寅年の出来事を振り返ってみると、2010年に民主党政権下で菅直人総理が誕生し、小惑星探査機「はやぶさ」が7年ぶりに帰還し小惑星「イトカワ」の微粒子の回収に成功した。1998年にはWindows98が発売され、サッカーW杯フランス大会に日本が初出場、横浜ベイスターズが38年ぶり日本一になった。1986年は、男女雇用機会均等法が施行され、ファミコンソフト「ドラゴンクエスト」が発売された。また、土井たか子議員が日本社会党委員長に就任し、日本の主要政党で初の女性党首になるなど、新しい発想の製品やサービスが生まれ、初めての出来事も多く起こっており、どれも寅年の「芽吹いたものが成長する、目立つ」という傾向が反映されているといえる。